3月議会一般質問のご報告

第１問「ごみ対策」、第２問「男女共同参画推進」、第３問「市の情報周知と広聴」を取り上げました。

http://smart.discussvision.net/smart/tenant/azumino/WebView/Councilorsearchresult.html?speaker_id=268&search_index=99

小林陽子
議会一般質問

QR コードから一般質問の録画放送にリンクできます。

1.「循環型社会の実現を目指すためのごみ政策、環境基準」

(問)本市は穂高広域施設組合を構成する6つの市町村の中で、ごみ排出が最大であり、率先した減量化・資源化が、地域の循環型社会(*)の実現には重要。市と組合の計画のすり合わせは。

(*)環境負荷を減らすため、ごみをなるべく出さず、自然の循環を尊重する暮らしのこと。
北アルプスの麓で、きれいな水資源と美しい田園風景の広がる安曇野市では、第２次環境基本計画でも、積極的に循環型社会を目指す取組みをする、ことが示されています。

(宮澤市民生活部長)基本計画策定時に擦り合わせた。実績や進捗も毎年確認・報告している。

(問)燃えるごみが全体のごみ量の約 80%で、燃えるごみ削減が急務だ。組合で排出される年間2,800トンの灰のうち、何と本市が約 4 分の 3 を占める。特に、焼却灰や燃料コストにも影響する生ごみについて堆肥化する等、対策を強化すべき。

(市民生活部長)重要な提案だ。生ごみ処理機器・コンポストの購入費補助以外にも、食品ロス削減の啓発等も研究する。

(問)河川や堰の水質モニタリング調査で、特に大腸菌群数が環境基準を超過している現状は。

(市民生活部長)市内 36 河川等で年 2 回水質検査し最も厳しい環境基準で評価しており、基準超過もあるが、10 年前よりは改善傾向。引き続き、経年での変化を検証していく。

→　循環型社会を目指す取組みとして、ゴミ問題、水質問題は継続してフォロー致します。

2.「男女共同参画の推進について」

(問)安曇野に双体道祖神が多いのは特徴的で、男女が仲良く協力しながら暮らしている象徴。一方、実社会では、意思決定の場に女性が少なく、共働き世帯が増える中、温かみのある地域社会をどう作るか課題が多い。市長の「イクボス・温かボス宣言」から 2 年経ったが取り組み状況は。

(宮澤市長)宣言による成果は一部現れているが、子育てや介護と仕事の両立できる職場環境を構築するには、意識改革はもとより、各職場での仕事の見直しが必要。市内企業への展開は緒に付いたところ。

(問)市長の率先した働きかけを期待する。また子育て中の父親への啓蒙等、継続的な啓蒙はどうか。

(堀内総務部長)男女共同参画推進フォーラムや、新事業として父親向けの子育てセミナーも企画中。

(高橋保険医療部長)妊娠中の両親学級開催等、安心できる子育て環境作りを考えて取り組んでいる。

(西村教育部長)学校教育でも、個人の尊厳と両性の本質的な平等、家族での立場や役割等を理解すること、性に対する適切な態度や行動を選択することができるように引き続いて指導する。

3.「市の説明会等の市民への周知方法、広聴について」

(問)広報誌やラジオ等を通じて丁寧な発信を心がける市の取組みは承知しているが、紙媒体離れやラジオ放送を聞き逃すケースも多々あるのも事実。社会の中核を担う現役、若手世代が市政に自分事として関わるためにも、知りたいときに知りたい情報が入手し易いことは重要。

(上條政策部長)HP で検索の見出しが増えすぎて検索し難くなっている、等の課題の改善を取組み中。また 2021 年 3 月の HP システム更新の際に、更にわかり易い HP となるように改善する。SNS(ツイッター)の活用促進や「広報あづみの」を携帯端末から見られるアプリ「マチイロ」の周知に努める。

(問)市民説明会の開催要領や周知の仕方を改善して、庁内全体で説明会開催における統一ルールを設けるなど、市民の信頼を得ていくべきではないか。

(政策部長)計画的な説明会開催と広報の発行日程を庁内に徹底し、十分な周知が図られるようにする。

(問)市民説明会等での「広聴」に対する市長の姿勢を問う。

(市長)「広聴」は私の信念。これからを担う若い世代、学生世代等からも積極的に話を聞きたい。反対の意見でも、具体的な対案を頂ければ政策反映も検討する。若手職員等の柔軟な発想もとても大切だ。

表面「安曇野、よいまちつくろう」からの続き

「学校プールの統廃合(全国各地)」　…　学校プールの老朽化を背景に、学校プールは廃止し、地域にある公共または民間プールを共同利用する取り組みが全国的に広がり始めています。校外のプール共同利用で、数億円もの学校プール更新費用や、水道料や修繕費用を削減し、またプール授業を専門家に任せることで、教員の負担が取り除かれ、安全性担保や授業の質が向上し、児童生徒が意欲的に水泳に取り組んでいるといった成果も報告されています。そして、プール跡地は、不足しがちな駐車場や、防災備蓄倉庫、運動場等として有効活用されているそうです。

翻って安曇野市内では、昨年は酷暑のためプール授業や夏休み中のプール開放中止が相次ぎました。学校プール開放は、地区ごとの当番で送り迎えや監視をする保護者の負担が大きいことも懸案になっています。市営穂高プールは3年間のみ延長となりましたが、単独での「残す残さない」議論でなく、将来にわたる市の財政改善を視野に入れ、市のプールのあり方について、引き続き検討したいと思います。

活動報告(2019/2~4)

2/26(火)小林ようこ後援会総会
　→多数ご参会頂き、本年の重点活動・市議活動等への闊達なご意見、応援を頂きました。
3/17(日)上原地区総会、21(木)穂高区総会、4/13(土)穂高区ボランティア会総会
3/17(日)穂高神社奉射祭
3/27(水)広報特別委員会、同 4/3、15、17
3/28(木)しゃくなげの湯周辺整備事業竣工式
4/19(金)穂高神社霊社祭宵祭、20(土)本祭
4/20(土)烏川水難事故慰霊祭
4/20(土)小林ようこ後援会第６回茶話会
4/25(木)「信州花フェスタ 2019」開幕式(松本スカイパーク)
4/26(金)開山式
4/29(月祝)早春賦まつり
他、小中学校卒業・入学式と認定こども園卒園・入園式に来賓出席